

国語 第1学年 ことばのたいそう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

相手が知らせたいことを落とさず聞き、聞きたいことを尋ねて詳しくする。聞いていないことを想像で補わない。単元の終わりに残すのは、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモ。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。
〔第1学年及び第2学年〕A 話すこと・聞くこと(1)エ	エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。

単元の目標

身近なことを表す語句を知り、話の中で使える。話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句を知り、話の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えている。（A(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（話・聞②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○短い話から聞いたことを確かめる。もっと知りたいことを選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	2 （本時）	○相手の返答を聞いて確かめる。聞く前後で分かったことを比べる。	知①・思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「もっと知りたいのは、いつ・どこ・どんなことですか」 【めあて】相手が知らせたいことを落とさず聞き、聞きたいことを尋ねて詳しくする。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「もっと知りたいのは、いつ・どこ・どんなことですか」 話し手は学校で経験した出来事を短く話し、聞き手は聞いたことと聞きたいことを分ける。聞き手が関連する質問を一つずつし、返答を待つ。聞き手は聞き取った内容を言い返し、話し手が合っているか確かめる。質問で詳しくなったことを絵や短い文で残す。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。 ・友達が答えたことをもう一度確かめたい。 ・聞くと初めより様子が分かった。	教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。 想定するつまずき：一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えている。（発言と学習記録） ◎知① 身近なことを表す語句を知り、話の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）（使った言葉・音読や表記の確認）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・聞くと初めより様子が分かった。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「もっと知りたいのは、いつ・どこ・どんなことですか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に

学習の順をたどる。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。この場合は、教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。おおむね満足できる状況は、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモ。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（1年）「1年下巻」73行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

